

鶴見大学歯学部同窓会愛知県支部

鶴歯会だより

第 22 号 20 年 3 月発行



第 22 号「鶴齒会だより」目次

* 目次		2
* 巻頭言	支部長挨拶	加藤友久 4
* 挨拶	本部同窓会会長	村田 憲信 6
* 第 27 回定例総会報告		斉藤伸明 7
* 講演会	「宮本延夫先生をお迎えして」	竹内 ヒロ子 9
* 早春会報告		
講演会	別府 智司先生 「有病者の全身管理と局所麻酔」	11 田中 英穂
* 学術報告	「最近、何でも無い時に良くムせるんだけど」	13 加藤友久
	「ビスホスホネート系薬剤について」	15 山田耕太郎
* 新入会員	魚住大樹 (28 回生) 加藤雄治 (29 期生) 安井有香先生 (31 期生)	16
* 写真集		18
* 会計報告		24
* 編集後記		25
* 役員会報告		26
付録	1 . 第 27 回定例総会資料 2 . 会員名簿	

表紙写真 滋賀県湖東三山
「百済寺」 紅梅
7 回生 田中英穂

巻頭言

日本公衆衛生協会会長賞 支部長 加藤 友久（4回生）

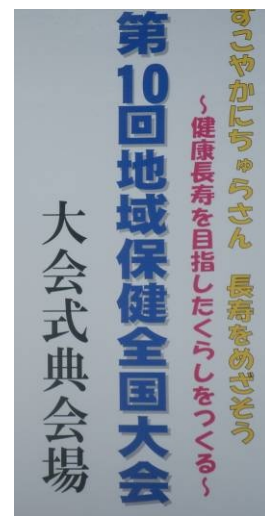
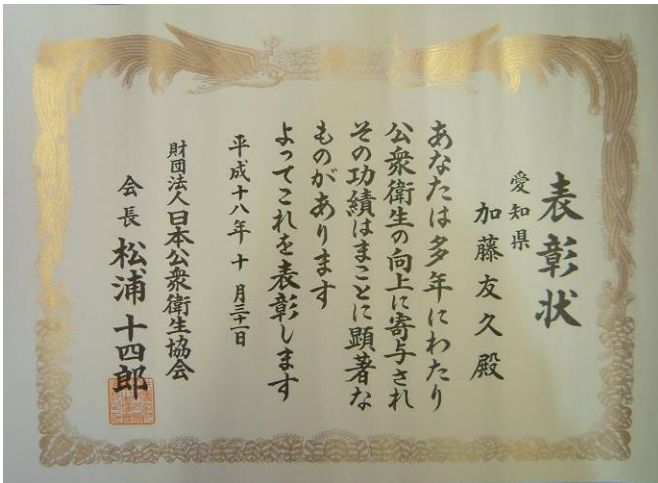


昨年度平成 18 年度に日本公衆衛生協会会長賞を授与いたしました。愛知県歯科医師会の公衆衛生部に昭和 63 年 4 月に入部してから、16 年もの間在籍しましたが、そのことだけで受賞したわけではありません。このような諸先輩方は愛知県の中には大勢いる訳です。その中から私が受賞できたのは鶴見大学同窓会愛知県支部のバックボーンがあればこそと思っています。ですので、鶴歯会会員の皆さん、また私を支えてくれている全ての皆さんに感謝いたします。

表彰式は平成 18 年 10 月 31 日(火)沖縄コンベンションセンター の劇場ホールにて、第 10 回 地域保健全国大会の中で行われました。当大会の開催趣旨は全ての住民が、生涯を通じて快適な生活環境の中で、心身ともに健康で生きがいのある生活を送ることができる地域社会を築くため、全国の地域保健関係者が一堂に会し、今後の地域保健対策の充実と実践活動の効果的な推進を図るとあります。このような大会の中で厳かに表彰式は執り行われました。

ところで、日本公衆衛生協会とはどのような会なのか紹介させていただきます。明治の初期のコレラ流行を契機として、政府が中心となって民間機関が側面的に援助する官民協力を図ることが必要であるとの観点から大日本私立衛生会が明治 16 年 5 月に設立、終戦後、厚生省には医務、薬務、公衆衛生、予防の衛生 4 局が誕生。昭和 22 年頃からこれらの関係が団結して一つの組織をつくり公衆衛生活動の発展に寄与しようとする機運が起こり、昭和 25 年秋その基本構想がまとまったものです。そして、財団法人日本衛生会を母体として日本保健協会（全国衛生技術官の団体）及び日本公衆衛生学会が合併して、昭和 26 年 1 月 30 日に財団法人日本公衆衛生協会が発足しています。かなりの由緒ある会から受賞したものだと思縮しています。

私は愛知県歯科医師会の中で色々なことをやってきました。摂食・嚥下リハビリテーション・禁煙対策・厚生労働科学研究等々です。これらには愛知県歯科医師会理事職だけでなく藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座・愛知県行政・日本歯科医師会の委員として現在も所属しています。私の今後の 10 年はこれらの集大成だと思い、がんばって参りますので、皆さんの支援を頂きますことを願って巻頭言とさせていただきます。



第10回 地域保健全国大会

開催趣旨 全ての住民が、生涯を通じて快適な生活環境の中で、心身ともに健康で生きがいのある生活を送ることができる地域社会を築くため、全国の地域保健関係者が一堂に会し、地域保健の今後の展望と問題点を検討することにより、今後の地域保健対策の充実と実践活動の効果的な推進を図る。

大会テーマ すこやかちゅらさん 長寿をめざそう
 ～健康長寿を目指したくらしをつくる～



本部同窓会長からのご挨拶

同窓会会長からのご挨拶



新年おめでとうございます。

本年も皆様にとりまして良き年となりますよう心よりお祈りいたします。

さて昨年は、選挙で明けて診療報酬改定で暮れるという、医政と関わりの深い一年でした。とくに石井みどり先生が、当選して直ぐに取り組むこととなった診療報酬改定には、私自身も日歯連盟の役員として、石井先生と連携をとりながら深く関わってきました。プラス0.42%という改定率(歯科)は、当初に目指した数字とはかなりの差があり、残念に思います。しかしマイナス4~5%を妥当な改定率とする財務省やプラスマイナスゼロが限界とする厚労族議員を相手に、一貫してプラス改定を主張して戦い続けた石井先生の頑張りは、ぜひ皆様にお伝えしたいことです。マイナス2200億円という大変に厚く高い壁がありました。ともすれば挫けそうになる辛い局面もありました。限られた日数の中で、日歯連盟とプラス改定への戦略を練り、プラス改定への党内世論を作り、党役員や有力議員へのロビー活動という極めて高度な政治活動を展開することができたのは、228165票という大きな票を得て当選した組織代表の石井議員であったからこそといえます。まさに同窓生の皆様のご努力で得た票が生かされたわけです。

ここで同窓会の平常活動についてご報告したいと思います。役員、委員の皆様の協力を得て現在のところ平常活動は順調に推移をしています。しかし会費未納入や事業の見直しなど、この時期にしっかりと取り組まなければならない重要な問題があります。国に例えるならば、この数年間は外交問題に精力的に取り組んできましたが、今年は内政問題にしっかりと取り組む年にしたいと考えています。役員一同、気分も新たに会務に励んでまいります。会員の皆様のご協力なくしては同窓会活動は成り立ちません。本年もご協力のほど宜しくお願いいたします。

鶴見大学歯学部同窓会会長
村田 憲信
平成 20 年 1 月 1 日



本部同窓会ホームページから

鶴見大学記念館

平成 16 年 9 月に完成した大学記念館。地上 3 階地下 3 階建てで、1 階には大学食堂、2・3 階には講堂とセミナー室、地下 1 階には学生厚生部（学生課・就職課）や学生ラウンジ、地下 2・3 階には記念ホールがあります。ガラス張りの窓からは自然の光がほどよく取り込まれ、明るさと緑に囲まれた開放感を満喫できます。記念館は各学部の学生が集まる交流スペースです。



第 27 回鶴歯会定例総会

愛知県支部定例総会を終えて

齊藤伸明 (11 回生)



平成 19 年 7 月 8 日 (日) 午前 10 時よりウエスティン名古屋キャッスルにおいて、平成 19 年度愛知県支部第 27 回定時総会が開催されました。出席者 25 名、委任状 30 名にて総会は成立致しました。

中村佳嗣専務理事の司会により総会は進行し、黒宮親一副支部長の開会の辞、加藤友久支部長挨拶につづき宮奈基次本部同窓会副会長の挨拶、続いて皆川象洋先生が議長に、長谷川修司先生が副議長に選出され議事に移りました。

報告

会員動静並びに慶弔 会員数 67 名 (6 月 10 日現在)
うち新入会員 3 名

渉外慶弔関係

*ご結婚

安井幸大先生 (31 期生) & 有香先生 (31 期生) 平成 19 年 05

月 20 日

*弔事

(鶴歯会会員関係分)

竹内尚子先生 (02 期生) ご尊父様 06 月 03 日

安藤博史先生 (05 期生) ご尊父様 08 月 23 日

(本部同窓会関係)

平本隆介先生 (前本部副会長) 11 月 13 日

(愛知県歯科医師会関係)

吉兼 守 先生 (元愛知県歯科医師会長) 08 月 21 日

本部評議委員会報告

愛知県支部役員名簿 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31

愛知県歯学同窓懇話会 / 十三校会および臨時十三校会

鶴歯会 HP アドレス <http://www.tsurumi.gr.jp/~aichi/> (ID・パスワード 不要)

新入会員紹介及び記念品贈呈

加藤雄治先生 (29 期生) 一宮市開業 一宮歯科医師会

安井有香先生 (31 期生) 刈谷市 安井歯科医院勤務

魚住大樹 (28 回生) 名古屋市 杉浦歯科勤務

1. 議事

第1号議案：平成18年度会務一般並びに役員会報告及び
平成18年度事業報告の承認を求める件

第2号議案：平成18年度会計報告及び監査報告の承認を求める件

第3号議案：平成19年度事業計画の承認を求める件

第4号議案：平成19年度予算案の承認を求める件

慎重な審議の結果、すべての議事が承認され大場直宏副支部長の閉会の辞にて本年度も無事総会を終えることができました。



加藤支部長挨拶



宮奈基次本部同窓会副会長



皆川議長



新入会員紹介

講演会報告

宮本先生をお迎えして

竹内 ヒロ子 1期生

第 27 回定例総会后「歯学部の産みの苦しみと鶴見大学の変化発展」との演題で、宮本延雄先生（現総持寺学園副理事長・駒沢大学理事長）による講演会が行われました。

先生は、我々鶴歯会のこの講演のために 9 ページにも及ぶ冊子（急遽作成されたとの事）をお持ちくださり、全員に配布していただきました。

冊子の項目を記します。

- 1、 歯学部設立までの紆余曲折
（昭和 43 年 2 月 15 日、その時歴史は動いた）
- 2、 歯学部設立準備委員会と認可
- 3、 歯学部開設
- 4、 歯学部の発展と歩み
- 5、 歴代歯学部長と病院長
- 6、 悪夢
- 7、 現在の学園幹部
- 8、 総持寺学園の変遷
- 9、 鶴見大学校舎等建築状況
- 10 国際交流
- 11 歯学部の将来展望

自分の学んだ大学の誕生について「あーそうだったの！」と何度もうなづきながら興味深く聞きました。私はいつの頃からか「医は仁術なり」という言葉が気に入り、診療に際しても自分に言い聞かせております。この言葉は、長尾初代学長先生が私たちの入学式のとき話されたものであるという事を宮本先生のお話で知りました。

私が入学したのは昭和 45 年（1970 年）ですから、本当に昔になります。先生のお話を伺いながら、入学した当時のこと、友人たちのこと、事務の方々のこと、事務の方や医局の先生方と生徒でマザー牧場（千葉県）に遠足に行ったことを思い出し、とても懐かしく思い出されました。

先生はたくさんのことについて、この項目に沿って詳しく、時に厳しい表情で、大部分は楽しそうに、そして熱く熱くお話しくださり、私は久しぶりに身を乗り出し、うなづきながら聞かせていただきました。

“楽しい時間は瞬く間に過ぎる”の言葉通り、一時間半の講演もあっという間

に過ぎてしまいました。

宮本先生、楽しい時間をありがとうございました。会員一同お礼を申し上げます。



講演風景



左から2番目 宮本先生 (マザー牧場にて)
(上記2枚の写真は竹内ヒロ子先生より提供)



初代歯学部長 長尾 優先生

宮本延雄(みやもと・のぶお)先生のプロフィール

昭和9年5月17日生まれ(72歳)

昭和32年03月 駒澤大学仏教学部仏教学科卒業

昭和32年09月 文部事務官(昭和44年03月迄)

昭和44年04月 鶴見女子大学歯学部開設準備室庶務課長
(大学庶務課長併任)(昭和45年4月迄)

昭和45年04月 鶴見女子大学歯学部事務部長(平成04年11月迄)

昭和54年04月 社団法人日本私立歯科大学協会経営部会委員就任

昭和55年04月 鶴見大学総務部次長併任(平成04年11月迄)

昭和56年11月 学校法人総持寺学園評議員就任

昭和59年10月 学校法人駒澤学園理事就任(平成16年03月迄)

平成04年12月 学校法人総持寺学園理事就任

鶴見大学・鶴見大学女子短期大学部学監就任

(平成10年10月事務局長に変更)(平成17年03月迄)

平成09年04月 学校法人総持寺学園常務理事就任(平成17年03月迄)

平成17年04月 学校法人総持寺学園副理事長就任

平成18年04月 学校法人駒澤大学理事長就任

早春会 - 別府教授講演会

7 回生 田中英穂

3月16日(日)11:00より県歯にて、早春会が開かれました。本年は本学より、平成18年、総合臨床科教授になられた別府智司先生をお迎えして、「全身管理の歯科と局所麻酔法」と題して講演していただきました。

問診表の重要性やら、循環器疾患、特に高血圧、心疾患、脳血管障害、合わせて患者さんが服用されている薬物、心電図に関してなど日常臨床に役に立つ事柄が満載でした。

それから、浸潤麻酔の方法などは、部位別に詳しく説明していただき、日常臨床の中でどうしても麻酔が効かない場合などの対処法についてなどは、皆熱心に聴いていました。

同窓生の教授ということもあり、又、気さくな別府先生のお人柄か、質問が多数出て、有意義な講演であったと思います。

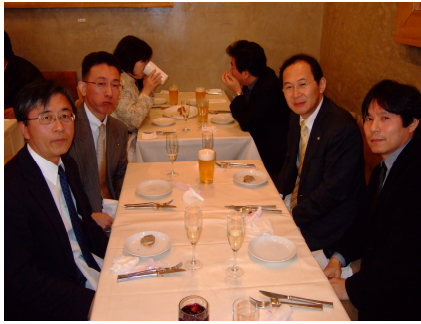
その後、場所を変えイタリア料理で食事会に移り、スパゲティなど、ワインを片手に学生時代の思い出や、現在の学内の様子など、多いに盛り上がりました。

別府先生とわたしは、大学時代アマチュア無線部で一緒させていただきました。同じ共通の趣味を持った先輩ということで懇意にさせていただき、卒業後も無線で何度も交信しましたし、近況を伝え合う仲です。学生時代はいつも片手に教科書を持って、よく勉強されていたのを思い出します。でも先生の人懐っこい性格は、今回お会いしても少しも変わっておらず、実は、私からのたっぺのお願いで、講演前日に名古屋入りしていただき一緒に食事させていただきました。その折、アマチュア無線の話やら、学生時代の話やら、本当に楽しく食事をする事が出来ました。

別府先生、どうもありがとうございました。



講演会 (県歯会館)



食事会の様子

略歴

別府 智司（べっぴ さとし）歯学博士 昭和 31 年 1 月 7 日生 （東京）

- 昭和 55 年 3 月 鶴見大学歯学部卒業
- 昭和 59 年 3 月 東京医科歯科大学大学院終了（歯科麻酔学専攻）
- 昭和 59 年 4 月 鶴見大学歯学部 歯科麻酔学教室 入局（助手）
- 平成元年 中国 北京市首都医科大学留学
- 平成 7 年 4 月 別府歯科医院 院長
- 平成 18 年 4 月 鶴見大学歯学部 総合診療科 教授 （非常勤）

その他の役職

日本歯科麻酔学会 専門医・評議員

日本大学・日大松戸・神奈川歯科大学歯科麻酔学非常勤講師など

著書

「臨床家のための舌診のすべて」編集 医歯薬出版

「処置別・部位別 歯科局所麻酔の実際」(共著) クインテッセンス社

「診療情報提供書の読み方・活かし方」(共著) ヒョウロンパブリシャーズ

ほか多数

学術発表

「最近、何でもない時に良くムせるんだけど」

加藤友久 4 回生



先日、鶴見大学の恩師である高水先生から、「最近良くムせるんだけど、何が起きてるの？ どうしたらいい？」と質問されました。また、愛知県歯科医師会の理事会会議中に風邪をひいている訳でもないのに突然ムせる先生をよく見かけます。これらに共通している点は、機会誤嚥と呼ばれているもので、咽頭期障害であり、れっきとした嚥下障害です。嚥下障害というと脳梗塞や脳出血などの脳血管障害の後遺症だけと思われがちですが実はそればかりではありません。年を重ねれば体力と筋力も衰えます。今まで早く走れたのに、ゆっくりしか走れなくなったりすることと同じく老化現象の一つです。ご飯や咽頭にたまった唾液を飲み込む時の瞬間は反射をもって行われ、約 0.6 秒で完結します。この反射が起こる時に喉頭蓋は後方へ倒れ、気道の入り口を閉鎖し、喉頭は舌骨上筋群が運動することで上方部へ引き上げられます。ところがこれらの筋肉の衰えからこの反射に対して、追いついていくことができず一瞬の遅れが生じます。この時に、自分の唾液を誤嚥するためにムせることとなります。どれくらいの量を誤嚥するとムせるのかと云いますと、1 滴以下です。数滴も誤嚥しようものなら 10 分以上も激しくムせることとなるでしょう。

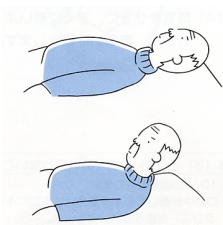
さて、これを防ぐためには原因が筋肉の老化と云うことは分かっている訳ですから、嚥下に関与する舌骨上筋群を鍛えれば良いのです。具体的には 1) Shaker exercise (食道訓練) をお勧めします。シェイカーと発音せずシャキアと呼びます。私はアメリカから嚥下では世界的な第一人者パーマー教授が来日された時に直接、指導を受けましたが、頭部を持ち上げたまま 30 秒の指示は辛いものがありました。この時に肩は上げないでください。頭だけを持ち上げます。この他にはムせる時に使用する筋肉を鍛える目的で 2) 咳をする運動 (咳嗽訓練) 3) 声帯強化訓練 Pushing exercise の両運動もお勧めします。この両運動は高齢者の診療をする際にも役に立ちます。特に歯の型をアルジネート等で採る前に、しっかりとムせる練習をしておく、もしアルジネートが気道を塞いでいても事前に練習していることで指示が通りやすいと思います。過去には歯科の在宅往診で印象材の気道閉鎖にて死亡事故が起きています。不幸にもこの時の患者さんはサイレントアスピレーション (不顕性誤嚥) と云って、誤嚥しているにもかかわらずムせることをしない状態でした。嚥下障害のことがよく分かっていなかった時代は不

顕性誤嚥が数パーセントとされていたのですが、VE(ファイバースコープにて咽頭部を直接診る診査方法)の登場で、近年は30%もの割合で発生していることは分かってきました。ですので、要介護者の歯科的診療ではかなりの注意が必要です。これらの事故を回避するためには動脈血の酸素飽和度を診る簡易モニターを指に付けながら呼吸を監視することをお勧めします。もちろん SpO₂ が 90% を下回ったら危険な状態です。

嚥下障害と云うと麻痺だけの患者さんで起こると思われがちですが、今、この原稿を読んでいるあなたにも筋肉の老化が起これば嚥下障害が起きてきますので、転ばぬ先の杖ではありませんが今から、下記の訓練をして舌骨筋群を鍛えてください。

1) 食道訓練 Shaker exercise

舌骨周囲菌群の強化と上食道括約筋の開大が目的。頭部を持ち上げ、5秒程度保持。口はしっかり閉じる。10回を1セットとし、一日4~5セット行う



2) 咳をする運動(咳嗽訓練)

お腹に手を置いて、一気に咳をします。日頃、飲み込んだ後、咳をすると良い。



3) 声帯強化訓練 Pushing exercise

「エイ!!」力強い声を出すし、息こらえを5秒ほど行う。息こらえをするときに声門は閉じる



ビスホスホネート系薬剤について 山田耕太郎 28 回生

2007 年 11 月中旬、県歯科医師会より各医院宛に送られました「ビスホスホネート系薬剤による顎骨壊死・顎骨骨髓炎について」については、先生方におかれましてはすでにご存知の事かと思えます。しかしビスホスホネート系薬剤の主な作用である骨粗鬆症の治療以外に癌治療にまで使用されているのかと疑問をもたれた先生もいらっしゃると思えます。

ビスホスホネートは損傷した骨表面のハイドロオキシアパタイトに結合する無機質の小分子に存在しております。1960 年代動物実験においてビスホスホネートのオリジナルで置換化合物前であるピロリン酸を投与し骨吸収抑制を発見しました。ピロリン酸の化合物であるビスホスホネート系製剤も同様に破骨細胞の働きを阻害し骨損傷を抑え骨形成に働く作用をもっております。(破骨細胞と骨芽細胞の関係である骨のリモデリングにつきましてはここでの記載は遠慮させていただきます)このことから骨粗鬆症治療に使用されてきましたが、近年癌治療においても併用されるようになりました。癌は原発癌と転移癌があります。転移先としては肺・脳・骨が主です。骨転移をした際骨吸収を促進し、骨を溶かす溶骨性と骨を造るのを促進する造骨性があります。原発癌において骨に対する作用が異なりますが、多くの骨転移の場合は溶骨性のため破骨細胞が骨を壊すこととなります。ビスホスホネート系薬剤を用いることにより破骨細胞を不活性化し骨の吸収を遅くすることができるため一般外科領域においては、抗癌剤やホルモン療法(主に乳癌)と併用するという背景があります。

顎骨壊死は主に癌治療における放射線治療・抗癌剤治療やステロイド療法、口腔内の衛生不良による感染が原因とされてきましたが、2003 年アメリカにおいて静注用ビスホスホネート系薬剤による顎骨壊死の報告がありました。欧米においては多発性骨髄腫、転移性乳癌、転移性前立腺癌などに対して投与された静注薬であるアレディアやゾメタが大部分を占め、投与後 9~14 ヶ月で骨露出、疼痛、歯の動揺、瘻孔形成などの症状が出現しているとの報告がでております。下顎骨に 2/3、上顎骨に 1/3 発生しておりますが、上下顎同時に起こることも認められております。多くの場合観血的処置を行ったため発生し頻度としては、静注薬で 0.8~12%、経口薬で 0.01~0.04%と報告され、一旦発症すると難治性であることが問題です。現時点では有効な治療法は確立されておらず、抗菌薬、口腔内洗浄、疼痛管理、保存的療法が推奨されています。

ビスホスホネート系薬剤に際しては、患者さんに十分なインフォームドコンセントを行うとともに、内科・外科主治医と密に情報交換し顎骨壊死・顎骨骨髓炎の発生の予防に努める必要があります。また 2006 年 12 月に厚生労働省より安全性情報が発表されております。決して観血的処置を行わず、根管治療を実施することをお勧めします。

新入会員紹介

魚住 大樹 28 回生

鶴見大学在学中は“光陰矢のごとし”で、細井学長、瀬戸教授など名誉ある先生方の下勉強できましたことは本当に良かったと思います。学生時代は日本拳法部に所属し、卒業後2年間、第2保存学教室に入局しました。

新井教授、小澤寿子先生には大変お世話になり心から感謝しております。

その後、2年間横浜市にある歯科医院に勤務し、19年5月に地元に戻り、現在は名古屋市内にある歯科医院に勤務しております。

ADL や QOL に、困難を伴った患者様が歯科医院に来られたときに、歯科医としてどのような対処が出来るか？医療は経験に基づく判断だけでなく、客観的な科学的根拠に基づいて診断・治療が行われるべきであると思います。

私たちは患者様に納得していただけることばかりに注意を払ってる一方で、本当に患者様は満足されているのか？自分たちの自己満足に陥ってるのではないかと、日々反省し努力している毎日です。

今は、時々東京へ講習会に参加しているこの頃ですが、今後は経営と技術などを習得して、一日でも早く先輩方に近づけるよう努力し、鶴見大学の仏教の精神に基づいて頑張っていきたいと思っております。

今後ともご指導、アドバイスなどよろしくお願い致します。

安井有香 31 回生

今回、結婚を期に愛知県民になり、鶴見大学歯学部同窓会愛知県支部に入会させていただきました。31回生の安井（旧姓 九野）有香です。現在、刈谷市の一ツ木歯科医院にて勤務しております。

生まれ育った場所を離れ、共に学び歩んできた友人達ともなかなか会えなくなってしまった事を寂しく感じる時も多々ありますが、ここから新しいスタートであると感じています。そんな中、鶴歯会の先輩方との出会いや交流は私にとって、とても励みになる事であり、大切にしたいと思っております。未熟な部分が沢山あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思っておりますが、ご指導、ご教授の程よろしくお願い致します。

加藤雄治 29 回生

平成 16 年 3 月卒業、現在、一宮市で亡き父の後を継いで、開業させてもらっています。

この度は、鶴歯会愛知県支部に入会させてもらうことになりました。大学時代には、サッカー部に所属しており、練習に励んでいた日々を懐かしく感じます。愛知県に戻ってきてからは、大学時代の友人や仲間と交流する機会がほとんどないので、寂しく思うこともあります。忙しい日々を送っています。日々の、歯科診療は鶴見大学で学んだことが活かされていますが、まだまだ、分からないことが多く、戸惑うこともあります。

母校である鶴見大学の先輩方と交流を持てることはとても心強いです。

若輩者ではありますが、これからもご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いします。



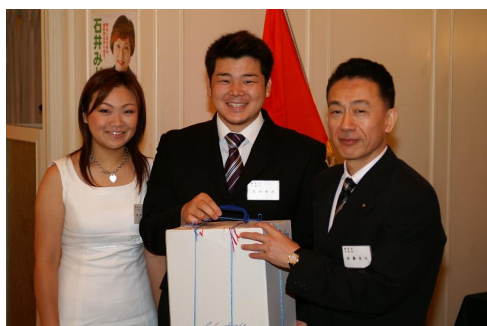
安井有香



加藤雄治



魚住 大樹

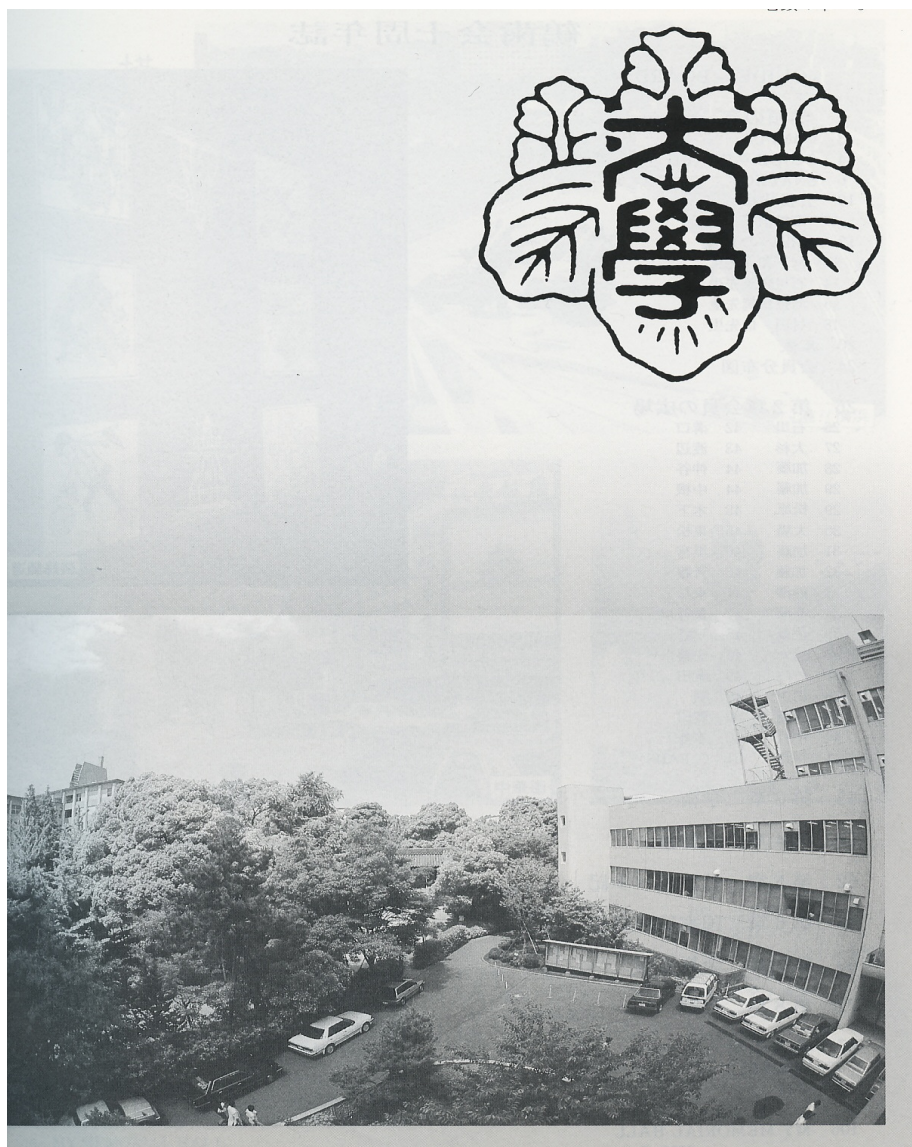


祝ご結婚 安井幸太・有香



記念品贈呈

写真集



10周年記念誌より

10周年記念誌より



東松前支部長(第8回総会 10数年前若い！)



加藤支部長(年度不詳こちらも若い！)





誰か分からない

ことはないなー

第5回総会 発会式



第6回総会 大森先生講演



石川前学部長 退官記念講演



花村先生講演



宮下 前県歯会長



10周年記念式典 総会



水野先生と皆川先生



石井みどり参議（当時日歯常務）



宮村県歯会長



鶴歯会名物男 黒宮先生

会経からのお知らせ

会員各位

平成 20 年 1 月 1 0 日

支部長 加藤友久

会 計 熊澤秀作

20 年度年会費自動振替のお知らせ

平素は鶴歯会の活動に対しご理解ご協力頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、20 年度の年会費を、8 月 6 日に先生方の口座より下記金額を引き落とさせていただきますので、口座残高のご確認よろしくお願い申し上げます。



編集後記

愛知県支部同窓会も 20 数年を経て、会員数 64 名を数えるに至った。発足当時、(私はまだ入会していなかったのだが)その頃のことをいろいろと先輩から聞くことがある。数名の会員数であったらしい。喫茶店みたいなところで初役員会が開かれたらしい。東松前会長の音頭のもと 1 回生が主であった。当然、鶴見大学歯学部も出来たてのほやほやで、本年度総会にも講演会をしていただいた宮本先生も、本書見られるように今の 1 回生ぐらいのお年だったのだろう。すごく若々しく見受けられる。この世に中、万物すべて変化していく。動物も植物も、勿論人間も、変化しないように見えるプラスチックでさえ衰えていく。般若心経心経にもそのようなことが書かれているらしい。しかし私たちの心の中にある思い出は、大学時代のあの楽しい、また苦しかったあの思い出は、こころのなかに鮮明に、少しも変化せず鮮やかに残っている。これこそが本当の財産なのではないだろうか。

今年も昨年同様 CDROM の形態で発行させていただいた。当然コンピューターのモニター画面で見ることが出来る。しかし可能であれば、この 22 号をプリントしていただいて見ていただきたい。編集者の拙なる願いである。

鮮やかな新緑 (世界遺産 五箇山にて)



役員会報告

平成 19 年度鶴歯会役員回報告

5月13日(日) 県歯会館 pm5:00~

・定例総会の準備 ・時局講演会の準備 ・十三校会の件 ・石井選挙の件

10月14日(日) 県歯会館 pm5:00~

・愛知県歯学同窓懇話会の件 ・早春会の企画立案 ・鶴歯会だよりの件

12月9日(日) 県歯会館 pm5:00~

・早春会の準備 ・鶴歯会だよりの件 ・忘年会

訃報

05月09日 加藤雄治(29期生) & 智子(30期生)ご尊父

06月29日 天野芝子(04期生)ご尊父様

07月11日 藤城彰宏(28期生)ご母堂様 藤城靖員(28期生)

11月 藤井 茂(05期生)ご尊父

12月04日 黒宮親一(05期生)ご尊父



役員会風景